

●平成十三年度
総会報告

大分県立竹田高等学校

関東同窓会 第15回総会・懇親会

とき 平成13年7月14日(土)

ところ ホテルセンチュリーハイアット

当番幹事 後藤 龍之介 (昭35年卒)



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第24号

発行者・会長 長吉 泉
編集者・委員長 神田 清
発行所・関東同窓会事務局
〒248-0025 神奈川県鎌倉市
七里ガ浜東 2-37-6
電話 0467-31-5715
FAX 0467-31-5715
印刷・佐伯印刷(株)

●平成十三年度
総会報告

昨日七月十四日(土)、新宿セ
ンチュリーハイアットホテルに
おいて第十五回関東同窓会総
会・懇親会が開催された。

安部校長、田北本校同窓会長
の他、本校同窓生でもある阿南
参議院議員や衛藤久住町長もこ
来賓として臨席され、総勢二四
四名が参加した。

長吉会長の挨拶にはじまり、
会務報告、会計報告が承認され
たあと懇親会に移った。

●第四回竹田・
東京懇談会開催

平成十三年十一月二十二日

中野サンプラザでの竹田会総
会に先だって、竹田高校・関東
同窓会、竹田会、竹田から状況
のメンバーを交えて、日本パー
カライジング会議室において、
懇談会を行った。今年の議題と
しては以下の三項目について午
後三時から四時半まで報告並び
に活発な意見交換を行った。

①、花水月 十一月一日より温
泉館がオープンした。遠くは
延岡あたりからも訪れるひと
もあり、特に週末は一五〇〇
人ほどが入浴にきており連日
盛況。

市内観光とセットで安定した
集客を図りたい。

②、竹楽 孟宗竹を使った竹灯
籠のイベントを、最も紅葉が
美しい時期に合わせて、岡城
もみじフェスタのメインイ
ベントとして十一月十七、十
八日に開催した。六月に竹の

切り出しから準備を進め、当
日までに一二〇〇本の竹灯
籠が用意されて、市内中心部
の「歴史の道」周辺は灯籠一
色に飾られて、訪れた観光客
を幻想的な雰囲気誘った。

③、音楽による街創り 音楽プ
ロデューサー・二十一世紀ク
ラブの吉竹代表(四一年卒・
現在京都在住)より、音楽に
よる竹田の町起しを計画した
いと提案がなされた。竹田
にしかないもの(滝廉太郎)
を生かして、海外にも通用す
るものを創造していきたい。

今年十月に、滝廉太郎が百年
前に訪れたライブチツヒから
メンデルスゾーンの薔薇の花
が贈られている。

こうした竹田にしかないもの
を生かして、将来的には、竹
田から世界へ向けて情報を発
信する国際的な音楽都市を目
指したいと篤い思いを述べら
れた。年内の立ち上げを目標
に当面の活動を開始する。

その他、参加の各位より市内
の空家の活用(民宿など)、若い
人の教育、生活基盤の充実など、
郷里の活性化に向けての意見交
換がされた。



総会と懇親会の
ご案内

乞ご期待!

●●第十六回
関東同窓会

日時

平成十四年七月廿日(土)

受付 AM十一時開始

場所

ホテルセンチュリーハイアット

(桃山の間)

●●総会
懇親会

当番幹事

第十三期(昭36年卒)

第二十三期(昭46年卒)

一、総会

・会務会計報告

・監査報告

・新年度の方針他

二、懇親会

当番幹事さん企画によ
る余興他。

尚、会場は学年別に椅
子席を準備。先輩後輩
の交流にご期待下さい。

企画委員長

桑島 輝茂

フォトで綴る!! 第15回総会懇親会風景

プログラム

12時30分～15時30分
(受付開始 11時30分)

「総会の部」

- 1、開会のことば
- 2、会長あいさつ
- 3、会務・会計報告
- 4、監査報告
- 5、会則の一部改訂について
- 6、新会長のあいさつ
(新役員紹介)
- 7、来賓あいさつ

「懇親会の部」

- 1、乾杯
- 2、会食・歓談
- 3、アトラクション
- 4、当番幹事引継ぎ
- 5、「校歌」斉唱
- 6、閉会のことば



大分県立竹田高等学校 第15回関東同窓会総会・懇親会



第15回関東同窓会総会・懇親会

〔長吉会長の挨拶〕



〔阿南議員の祝辞〕



当番幹事による「心温かい」受付



大分県東京事務所
飯田所長他ご来賓の方々。



盛り上がったアトラクション
青春の歌声 校歌斉唱
みんな若返ったかな?

竹田高等学校関東同窓会新役員名簿

(平成13年4月1日改選)

相談役	高宮 昇 (昭8年卒)	副幹事長	服部 恭一 (昭34年卒)
	渡辺 正治 (昭10年卒)	総務委員長	西 誠 (昭30年卒)
	伊東 七五三 (昭20年卒)	企画委員長	桑島 輝茂 (昭42年卒)
	近藤 秋男 (昭23年卒)	組織委員長	後藤 猛士 (昭41年卒)
顧問	中川 清次 (昭4年卒)	広報委員長	神田 清 (昭26年卒)
	田部 健 (昭11年卒)	名簿委員長	和田 剛 (昭34年卒)
	石原 田鶴子 (昭14年卒)		
	池内 勇吉 (昭23年卒)		
	里見 菊雄 (昭26年卒)		
	工藤 敏暢 (昭29年卒)		
		幹事長	用正 靖彦 (昭30年卒)
		副会長	栗生 利信 (昭23年卒)
		会長	長吉 泉 (昭26年卒)
			阿南 一成 (昭31年卒)
		監事	佐藤 映之 (昭28年卒)
			徳丸 大典 (昭20年卒)
			渡邊 真一 (昭23年卒)

平成十三年度総会報告と 平成十二年度会務・会計報告



幹事長

用正 靖彦
(昭30年卒)

(一) 平成十三年度 総会報告

平成十三年七月十四日(土)、ホテルセンチュリーハイアットにおいて第十五回関東同窓会総会・懇親会が開催された。

冒頭、物故者十一名の方々のご冥福を祈り黙祷を捧げたのち、総会に入った。

来賓として母校の安部校長、田北本校同窓会長、阿南参議院議員、飯田懸東京事務所長、佐野大分懸人社社長、衛藤久住町長、姫野竹田商工会議所会頭、立川東京豊工会幹事長、岡本三重農高関東同窓会幹事長が臨席。又、竹田、大分地区より当番幹事である三十五年卒の同級生の参加もあって、出席者は総勢二四四名の盛大な総会となった。

長吉会長の挨拶にはじまり、会務報告、会計報告、監査報告が承認されたあと、会則の一部改訂が審議され、満場一致で可決された。

続いて安部校長より母校の現況について説明と田北本校同窓

会長の挨拶のあと、来賓の紹介が行われた。

今年には役員の変更期にあたり続投される長吉会長より新役員の紹介があった。新役員は本紙別掲(二頁)の通りであります。

今回退任された、匂坂企画委員長、川合組織委員長、牧名簿委員長には長い間お世話になりました。

懇親会では「小林淑郎とハッピートラッド」が演奏する懐しのスイングジャズを楽しみ、リクエストが出る程盛況でした。

最後は全員肩を組んでの校歌斉唱で盛り上った。

当日出席されなかった会員の皆さまには本紙面をお借りして以下平成十二年度会務・会計報告を致します。

(二) 平成十二年度 会務・会計報告

(1) 会務報告

●平成十二年四月二十一日幹事会
於 学士会館 出席二四名
・総会、懇親会運営内容再確認
・総会、懇親会経費予算について

・名簿の発行について
・隔年学年幹事会開催について

・同窓会のインターネット掲載
検討会開催について
・広報誌「臥牛」の内容報告

●平成十二年五月十三日
第十四回総会、懇親会の案内
状発送 参加三〇名

●平成十二年六月二十六日
隔年学年幹事会開催
於 学士会館 出席十二名

・学年幹事の確認・住所変更等の名簿の整備

●平成十二年七月一日
第十四回総会、懇親会 於
グランドヒル市ヶ谷 出席二〇四名

当番幹事 昭三四年卒、昭四四年卒が担当
開会、会長挨拶、会務、会計報告、監査報告、来賓挨拶、乾杯

アトラクションは東京メトリポリタンアンサンブルによる

・弦楽四重奏
郷土特産品コーナー設置
出席者全員土産

●平成十二年七月五日
ホームページ検討会へ広報委員会と同時開催 出席八名
・ホームページ「この指とまれ!」に登録済

・ホームページのアクセス方法を「臥牛」へ掲載する。

●平成十二年八月二十三日
管理体制は要検討

●平成十二年八月二十三日
総会、懇親会の反省会兼慰労会 於 日立電線高輪寮

役員、当番幹事、次年度当番幹事、出席三名
●平成十二年十月十三日役員会 於 学士会館 出席八名

・秋の定例幹事会日程、議題について
●平成十二年十一月十六日幹事

会 於 学士会館 出席三二名
・第十四回総会、懇親会の結果報告

・第十五回総会、懇親会に向けての日程確認
・維持会員の状況報告

●平成十三年二月八日役員会
於 学士会館 出席一名

・役員改選年度にあたり新役員候補について
・春の定例幹事会日程、議題について

(2) 会計報告 (表参照)

会計報告は平成十三年五月三十一日に得九大監事が監査を実施し、適正かつ正確である旨の報告があり、総会において承認されました。

会計報告

収支計算報告書

(平12.4.1から平13.3.31まで)

1. 収入			
①	入持会費	1,972,780円	費費儀料息入
②	雑持会費	1,568,000円	
③	雑持会費	80,000円	
④	雑持会費	30,000円	
⑤	雑持会費	238円	
⑥	雑持会費	6,076円	
	計	3,657,094円	
	前期繰越	341,724円	
	合計	3,998,818円	
2. 支出			
①	総会費	2,166,680円	費費費費費
②	総会費	784,214円	
③	総会費	317,424円	
④	総会費	60,182円	
⑤	総会費	11,837円	
	計	3,340,337円	
	次期繰越	658,481円	
	合計	3,998,818円	
3. 次期繰越の内訳			
①	現金	203,698円	
②	預金	454,783円	
	計	658,481円	

上記の通り報告します。

平成13年5月10日

幹事長 用正 靖彦

監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。

平成13年5月31日

監事 吉田 忠典
監事 吉得 丸大

会員特別寄稿

竹田高校に描く夢



校長 安部義和先生

私は平成十三年四月、竹田高校に赴任した。竹田の町は確かに古い町ではあったが、不思議なくらいの落ち着きを感じさせた。喧噪といった類とはまるで無縁で、狭いうえに曲がり角の多い街路のせいか自動車も無音のままに走っている。

竹田高校の校訓に「進取研鑽以って文化に寄与せん。」とある。これは遠く離れた地にあっても遅れをとってなるものか、むしろこのことを逆手にとって文化の先端を極めるのだと、新しい情報に神経を研ぎ澄ませている先輩諸氏の熱い思いだと受け止めた。冷気を感じる校長室には、明治三十年大分尋常中学校竹田分校の設立を訴える旧藩主の系統であろう中川久任氏の古い書体の檄文があり、初代校長大久保静平氏の「温良恭儉」なる揮毫は、「生きる力」を教えねばならぬ今となっては羨しい限りであるが、当時の生徒の過ぎる程

の旺盛さを戒めたものだと思う。岡城から出城のあった愛宕山一帯が竹田高校の学校林であることは余り知られていない。大げさな言い方をすれば、岡城は竹田高校の中にあるのである。この誇らしげな事実を、生徒ひとりひとりに知ってもらおうと、久しく行っていない学校林散策を昨年七月より復活した。



下校風景

竹田高校第十五回関東同窓会は、去る七月十四日二百有余名の参加者で盛大に開催された。遠く竹田の地を離れ、それぞれに御苦労をなされた方々が、母校の校長のつたない話に各々の情報を得ようと耳を傾ける。竹田温泉の「花水月」が十一月にオープンすることや、梅雨の頃の大雨で稲葉川が増水し、竹田高校が途中下校になったことなど、取り留めの無い話にも大きく頷いて戴いたりして、神経は故郷一点に凝縮された。私はそ

の雰囲気は今も持ち続けている。竹田は楽聖、画聖を育くんだ



山岳部 県体10連覇

文化満つる町である。私が竹田高校に描く夢は、竹田の町を文武両道を基盤にした学びの町にすることだ。生徒や地域の人々に、心を込めて爽やかにできる挨拶のような学びの心を内面から育てていきたいのである。

知ることの大切さ、何のためか。学ぶのか、学ぶ心構え等さまざまな観点の中から文武両道を取り上げてみたい。勉強とスポーツはなぜ両立させねばならぬのか。人は生まれながらにして相反する二つの性質をもっていき。ひとつは平和を願う心であり、もうひとつは闘争の心である。そして双方をバランスよく育てねばならない。勉強し教養を高めることは真理を求め、ものごとを平和的に解決しようとするものであるから争うべき対象がない。強いて言えば自己と

の争いであろう。勉強を争いとして捉えようと、さまざまな誤解や偏見を生み出す。世渡り術を覚えたり、人の虚をつく抜駆けや最後には他人の不幸を願うようなことにもなりかねない。成績の思うようにならない子ども達は敗北感をもつようになるかも知れない。長い年月にわたっての負け犬意識の積み重ねが、ある時大事件の引き金にもなりかねないのである。一方、スポーツは定められたルールの下に勝利を競いあうのである。若者が本来胸に持つ闘争の血潮を正しく反映させるのがスポーツである。連日勝利をめざして苦しい鍛錬を重ねる。しかし最後に勝利の栄冠を掴むのはたったひとつのチームや人である。多くの若者が必死の努力も空しく敗れ去る。敗北感、虚脱感が漂う。しかしこの敗北感は争うべくして敗れ去ったのであるから将来により大きな希望を生み出す源泉となる。争ってはならない争いに敗れて不当な敗北感を味わうのとは格段に違った爽快な気分をもたらすのである。若さが合わせ持つ両刀の剣を間違いない振るうよう導くことによつてバランスのとれた大人への正しい門出としなければならぬ。

竹田の町に全県下の俊才が集まって青春の時を過ごし、全国、全世界に羽ばたく。そんな学園の町竹田を竹高が築きあげる。ぜひとも現実にしたい夢である。



ストーム風景



臥牛祭(体育祭)

燃える!!

クラス会・同期会

二六会卒業後

五十周年記念

馬弓 良彦 (昭26年卒)

一、久方振りの母校訪問

(記念品を贈呈)

二、錦秋の久住高原に

一一五名が集う

昭和二十六年春竹高卒業後、五十周年を迎えた高校三期生の同期会が、昨秋十一月十一日夕刻、久住高原荘で開かれた。

午前中、久し振りの母校見学を兼ねて有志が集まり、講堂で剣道部用の姿見(三面鏡)など記念品目録を安部校長先生に浜口鈴子さんが手渡した。

母校の校庭は銀杏の黄葉に彩られ、岡城址に登ると竹田盆地を囲む久住、阿蘇、祖母の山並みは蒼く悠久不動。

大会の井田省三幹事代表は、錦秋眩い久住高原に恩師三人、百十五人が集う、と報告。

懇親会には田北和義(竹高同窓会会長)、小松一雄、高崎信江の三先生も出席。祝舞(木部ヒサエ)、祝吟(宮成哲朗)、祝歌(野仲契生)、謡曲(竹森満国)を諸君が熱演、高崎信江先生の「ひばりの佐渡情話」絶唱で宴



竹高26会 50周年同期会 2001年11月11日 於 久住高原荘

席は盛り上がった。

半世紀の遙かな歳月は、一夕の懇談では語り尽くせない。往事茫茫ながら、終戦の年に旧制中学、商業、高女に入学してから六年間も同じ学舎の下で過ごした絆は固い。古希を迎えようとしてみな意気大いに壯ん。

車椅子で参加した藤本健次君が奥さんに支えられ「荒城の月」を歌い出し、感動は校歌の全員斉唱へと波打った。

またの同期会で再会を誓い、秋冷の深更に名残を借しんだ。秋長けて 集う心に 夢螢

七燿会東京大会

全国から一〇五名が参加

安西 政雄 (昭30年卒)

一、七燿会の由来は

二、御殿場での赤富士の

強烈な印象

昨年十一月六・七日、七燿会東京大会に参加し、一泊二日の富士旅行に出かけました。

七燿会とは、大分県立竹田高校第七期卒業生の同期会の名称です。「大空に羽ばたく火の鳥の如く、未来に向かって輝く様に」と、野だいこならぬ風貌は山嵐の如き、当時の国語教師が名付けたものです。

東京駅までの車中では、マイケル・ブレインの最新作「墮落

のある風景」を読みました。十六世紀フランドルの巨匠、ピーテル・ブリューゲルの作品が重要なモチーフのサスペンスです。

東京駅からはバス2台に分乗です。今回の参加者は大分県内、九州各県、四国、中国、関西、中京、関東/甲信越、東北の各地区より女性四十七、男性五十八、合計百五名の多数との事。バスの中では、只管飲み、食い、竹田言葉が飛び交いました。

御殿場では富士山が全容を現わし、ガイドが赤富士の説明を始めます。古くは北斎から大観など、多くの芸術家を魅了した赤富士ですが、小生は、林武の作品の印象が強烈です。山中湖を見下ろす高台のホテル・マウント富士では露天風呂からも、富士の姿は圧巻でした。

宴会は十八時に始まり、代表幹事、各地区幹事の現状報告、二十五名の物故者にたいして黙祷の後、二十二時まで続きました。

二日目は集合写真の後、富士五合目に向かいました。雲海を越えると、富士は巨大な姿を現わし、五合目ではまさに圧倒される思いでした。「富士詣一度せしといふ事の安堵かな」(虚子)。

東京駅に帰着後、横浜中華街に出かける組もありました。このような機会には、加齢と共に貴重なものとなるでしょう。



竹田高等学校七燿会東京大会 平成13年11月7日 於 山中湖畔 ホテルマウント富士



●維持会費ご負担のお礼とお願い

*関東同窓会は、ご承知のとおり、維持会員の皆様の日頃からの、深いご理解とご協力に支えられて、同窓会の運営が安定的なありゆきを続けております。

*未済となっておられる方々には、何かと出費、ご多端の折かとも思いますが、ご負担についてのご協力方よろしくお願い申し上げます。

●平成13年度年会費納入者芳名簿

(平成13・4・11・14・3・31)「総務委員会」

お名前もれがありましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL 0467(31)5715 FAX 0467(31)5715

「旧制中学の部」

- 昭和4年度 中川清次、太田克己
- 昭和6年度 山口立
- 昭和8年度 高宮昇
- 昭和10年度 吉田忠、渡辺正治
- 昭和11年度 田部健、武藤省三
- 昭和13年度 小倉幸雄
- 昭和15年度 荒牧治、須藤勲二
- 昭和16年度 森一郎
- 昭和19年度 服部舜次、後藤忠士
- 昭和20年度 足立五郎、伊東七五八、堀健一、渡辺龍雄、高畑憲蔵、大塚達夫、伊東健二、吉良禮三、得丸大典、留高照幸、那須隆澄、前田健、堀修一郎
- 昭和22年度 後藤宗一、麻生幸雄
- 昭和23年度 粟生利信、家原和雄、池内勇吉、近藤秋男、布施泰義、和田真琴、渡邊真一
- 昭和8年度 久保タケ、三宮勝子、野口初子、小西ハル

「新制高校の部」

- 昭和9年度 阿南幸子、内山俱子
- 昭和11年度 飛田芳子
- 昭和13年度 石井シズエ、三代照子
- 昭和14年度 石原田鶴子、小倉セツ
- 昭和15年度 植山素子
- 昭和16年度 広瀬尊子
- 昭和17年度 脇本安子
- 昭和19年度 中島止子
- 昭和20年度 寺田タツ
- 昭和21年度 得丸サヨ、村上福子 (稲葉会・石原代表)
- 昭和24年度 安藤俊哉、真田次麿
- 昭和25年度 新名義晴、中屋裕岐、飯倉一郎、本田仁夫
- 昭和26年度 森義幸、田北忠
- 昭和27年度 阿南惟正、飯倉一郎
- 昭和28年度 伊藤珠介、今永博彬
- 昭和29年度 牛島健一、大崎員雄
- 昭和30年度 神田清、吉良欣一、佐藤収、里見菊雄、志生野温夫、高松良雄
- 昭和31年度 都築義範、長吉泉、濱口鈴子、瀧野修、別府正克、大坪孝子

- 昭和27年度 吉野昭重、重田英子、高山茂美、飯倉成憲、河野テール
- 昭和28年度 阿南淑子、甲斐智津子、金子一也、上村マサ子、高須敏士、工藤謙知、得丸正哉、津田美枝、後藤利治、鎌田昭子
- 昭和29年度 江崎和彦、篠島資裕、河野元義、坂本勇、佐藤映之、中村シゲ子、堀利亘、益永三生、古謝正祐、佐藤源治、堀博、麻生巖、佐藤毅士、西美智子

- 昭和29年度 秋吉政夫、瓦林義昭、工藤敏暢、小坂悌三、下川正見、田北元良、林盛生、深田発子、八木国皓、山口雄三、吉川隆治、久保博紀、得丸郁子、小島妙子、山田百子、秋元幹夫、小代孝、堀光安、松澤立雄、後藤忠臣、飯田芳信、秋吉政夫

- 昭和30年度 阿南忠義、大塚隆右、川合文彦、佐藤清八、西誠、室慎一、盛哲男、用正靖彦、西山尚子、森勝幸、真田はつみ、丸山郁代、佐藤輝男、新開和子、河野充、斎藤昭義、巖宝雲、渡瀬宏、吉川忠啓、四宮俊夫、後藤善郎、紀成鴻次、亀崎正幸、平田豊年

- 昭和31年度 上田武男、内田豪、佐藤順之助、生野勝、阿南一成、林豊美、阿南暉、小代邦弘

- 昭和32年度 阿南暉、小代邦弘
- 昭和33年度 板井洋一郎、佐藤誠一郎、塔尾恵美子、牧壮亮、立川美知、加藤興史、長田美貴子、佐藤朝生、海野厚子、片山研、小代基秀、上野好生、近藤吉明、土屋健児、後藤大林、後藤恒嘉

- 昭和34年度 武内英則、服部恭一、吉崎祥子、齊藤英昭、羽田芳郎、阿南洋子、津下渥子、和田剛、成安富吉、菅紀代巳、松岡安和、小澤康三、高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚忠士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、副田健治、平手肇、用正ツキコ、工藤信子、宗像鹿子、酒井俊治、大神喜八郎、衛藤俊司、岸田昭子、川合達徳、鍵小野草、松本雅愛、木村正毅、田北喜代子、平井和子、萩原忠、大岡房子

- 昭和35年度 徳丸和子、桃溪謙次郎、朝見隆子、木内千草、古庄正欣、佐野勝子、落合淑、安藤俊和、緒方信義、熊谷克直、田北則夫、古川勝俊、高辻紀代、古庄史郎、後藤宏、堀友朗

- 昭和36年度 徳丸和子、桃溪謙次郎、朝見隆子、木内千草、古庄正欣、佐野勝子、落合淑、安藤俊和、緒方信義、熊谷克直、田北則夫、古川勝俊、高辻紀代、古庄史郎、後藤宏、堀友朗

- 昭和37年度 徳丸和子、桃溪謙次郎、朝見隆子、木内千草、古庄正欣、佐野勝子、落合淑、安藤俊和、緒方信義、熊谷克直、田北則夫、古川勝俊、高辻紀代、古庄史郎、後藤宏、堀友朗

- 昭和38年度 緒方信義、熊谷克直、田北則夫、古川勝俊、高辻紀代、古庄史郎、後藤宏、堀友朗
- 昭和39年度 後藤宏、堀友朗

- 昭和40年度 吉岡龍雄、角田寛、羽立圭爾、堀田大、藤田和宏、池田重和、首藤利幸、伊藤大義、近藤悦子、大坂好美

- 昭和41年度 阿南裕康、河野精一、後藤猛士、後藤彰二、藤井正浩、都文生、衛藤昌平、藤井恒雄、伊藤誠至、栗田信子、桑島輝茂、真田正紀、羽田野寿一郎、橋本ともえ、堀正孝、工藤健二、三代治次、和田和子、山本英次

- 昭和42年度 石丸章代、吉本小夜子、甲斐文夫、高野優子、工藤三男、倉本正博、都俊生、酒井真美子、高橋博子、菅裕子、鈴木薫、伊東治行、高山真二、本田壮一、朝倉幸、田方陽子、外村文宏、富田一彦、小代基昭

- 昭和43年度 日高慶記、保坂育子、工藤美智子
- 昭和44年度 蓮池智子、工藤恭一、北島知恵、本田美保子、小出裕子、山道双葉、鈴木敬子、長濱和子

- 昭和45年度 後藤祐治
- 昭和46年度 山部光男
- 昭和47年度 右藤泰幸、山口満子
- 昭和48年度 岡田美樹
- 昭和49年度 和田典久

- 昭和50年度 和田典久
- 昭和51年度 和田典久
- 昭和52年度 和田典久
- 昭和53年度 和田典久
- 昭和54年度 和田典久
- 昭和55年度 和田典久
- 昭和56年度 和田典久
- 昭和57年度 和田典久
- 昭和58年度 和田典久
- 昭和59年度 和田典久
- 昭和60年度 和田典久

- 昭和61年度 和田典久

以上311名・1団体の皆様より維持会費の納入をいただきました。ご支援いただきました心より御礼申し上げます。

ふるさと名所紀行

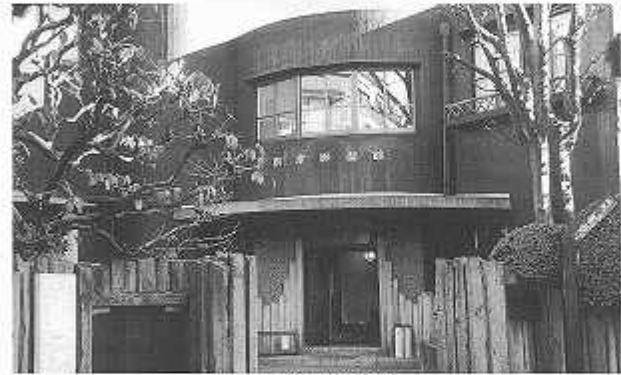
～朝倉彫塑館～



五典の水庭



「時の流れ」



朝倉彫塑館

台東区立

朝倉彫塑館

佐藤 毅士(昭28年卒)

今回は郷土大分の名所旧蹟ではなく、東京にある朝倉文夫ゆかりの台東区立朝倉彫塑館を紹介したい。

JR山手線日暮里駅西口から御殿坂を登り、左に折れると徒歩五分の所にある。このあたりは戦災を免れたので植木鉢の並ぶ長屋や、小さな商店など、古い町並みは、江戸、明治の面影を今も残している。

この建物に朝倉文夫が住んだのは、東京美術学校を卒業した明治四十年、二十四才の時でした。その後、何度かの改装が行なわれ、昭和十年に現在の全館が完成した。アトリエには朝倉の代表作である「墓守」をはじめ「時の流れ」「産後の猫」「九世団十郎之像」それに大分出身の横綱「双葉山像」など約五十点を常時展示している。その他一階には、書斎、応接室、茶室、居間があり、敷地の中央には「五典の水庭」と云う湧水を利用した日本庭園が静かなたたずまいをみせている。

二階は朝倉文夫の美意識で収集した書画、陶器、

茶道具、日用品の収蔵庫、朝倉姉妹の居間などがある。

三階の大広間「朝陽の間」は来訪する賓客のための座敷で、大きな「円」テーブルと共に客に対する心配りが盛り込まれている。

朝倉文夫は明治十六年三月一日大分県直入郡竹田(現朝地町)に生れる。明治三十年十四才で大分中学竹田分校入学、明治三十六年二十才で東京美術学校入学、明治四十年彫刻科卒業、その後文展などで活躍し、大正十三年三十八才で東京美術学校教授、昭和二十三年六十五才の時、文化勲章を授与、昭和二十七年その文化勲章を胸に、竹田高校で講演され、筆者はその時の感銘を今も忘れることが出来ない。昭和三十九年八十一才で逝去された。

朝倉文夫は、写実主義を貫き、生涯驚異ともいふべき質と量の制作を誇るとともに、明治、大正、昭和の三代に亘り、近代日本の彫塑界をリードして来た。この館全体が、朝倉芸術作品であり、人間朝倉文夫の全貌を知る上で最も適したものである。郷土の偉大な先輩の業績をしのび、更に深く理解するために、ぜひ尋ねて頂きたい。

記

開館時間 九時半～十六時半
休館日 毎週月、金曜日
入館料 大人四〇〇円
小人一五〇円

所在地 台東区谷中七、十八、十
電話 〇三・三八二・四五四九

平成十三年年度竹田会 大盛會裡に開催

平成十三年十一月二十二日(金)

於 中野サンプラザ
田部 修士(昭42年卒)

平成十三年十一月二十二日中野サンプラザにて関東竹田会の総会・懇談会が開催された。今年度は、丸紅・辻社長、二十一世紀クラブ・吉竹代表初め初参加の方や女性の出席も目立ち、大変盛況な総会となった。

志生野アナウンサーの司会で総会がスタート、初めに五月五日にご逝去された二代目竹田会々長・故加藤郷一氏のご冥福をお祈りし黙祷を行った。里見会長より「新世紀の幕開けとして期待したがどうも冴えない年となった。本日三時より竹田からの来賓を交え、役員にお集まり頂き連絡会を行ったが、その中で竹田に関係する良い報告を沢山頂いた。竹田商業高校七十年の記念の年に生徒がパソコン日本一となった。私にとつて青春を過ごした山紫水明の竹田の復活を望んでいます」と挨拶があった。

阿南市長からは「毎年この会にお招き頂きありがとうございます。年一回の会合ですが、毎月皆様に会っている様な気がして大変うれしく思います。温泉館・花水月を拠点に竹田発展のもととしたい。」続いて、姫野商工会議所会頭が、竹田からの来



里見会長の挨拶

賓を紹介した。古井議長、高橋助役、菅観光協会会長、内川市議、小出市議、平野竹田商同窓会長、山口氏、板井氏、後藤氏。平野会長は十月に開催された竹田商業高校の七十年記念式典の報告と関係者への御礼を述べられた。

伊藤七五三氏の音頭で懇談会が始まった。阿南一成参議院議員は「最近ではイッセイと呼んで頂いていますが、親からもらった名前と違う呼び方をする点について、帰省の折にご先祖様の墓前に報告しご了解を得た。地元の問題、国の問題など、頑張らなければと思っている」と挨拶。昨年明治大学・理事長にご就任され、また在京大分県人会会長に就かれた長吉副会長からも「花水月で一時間たつぷりお湯につかり、すっかり健康を取り戻した」と特別に挨拶があり、竹田からの来賓、初参加の会員等々を取り囲んでの懇談、写真撮影の花が咲いた。恒例の福引では、沢山の会員が竹田の

自然薯、椎茸などをゲット、会
は最高潮に達した。最後に喉に
自慢の面々が壇上に上がり、津
下氏のリードで一同「美しき竹
田」「荒城の月」を熱唱、山口副
会長の締めで来年の再会を期し
て会を閉じた。

掲示板

●平成十三年春の叙勲

勲二等 旭日重光賞

近藤 秋男 (昭23年卒)
経歴 全日空社長

●竹田会開催のお知らせ

・平成十四年十一月八日(金)
・於 中野サンプラザ

PM六時予定

未来の素材



21世紀への付加価値の提案
当社は表面処理技術を通して未来を構築致します。

日本パーカライジング株式会社

本社 103-0027 東京都中央区日本橋 1-15-1 TEL(03)-3278-4323
代表取締役社長 里見 菊雄 (高3回)

訃報

慎んでお知らせ申し上げ、
心からご冥福をお祈り致し
ます。

物故者御芳名

阿南 基二様 (昭45年卒)
平成11年5月16日 没

西田 隆様 (昭6年卒)
平成11年12月8日 没

板井 弘明様 (昭32年卒)
平成12年2月15日 没

安部 正之様 (昭20年卒)
平成12年7月14日 没

藪尾 利秋様 (昭9年卒)
平成12年12月4日 没

佐藤 征子様 (昭32年卒)
平成12年12月15日 没

惣川 和子様 (大12年卒)
平成13年1月3日 没

平林 亀四海様 (昭24年卒)
平成13年1月7日 没

足立 達様 (昭29年卒)
平成13年3月23日 没

栗生 孝信様 (昭27年卒)
平成13年5月4日 没

加藤 郷一様 (昭5年卒)
平成13年5月5日 没

詩歌・文芸

本田 照昭 (昭30年卒)

富士山輝朝陽

破●曉●凌●寒●出●戸●行●
喬●峰●雪●白●十●文●明●
朝●光●待●望●照●高●嶺●
看●得●紅●粧●富●士●清●

下平声八庚

破曉寒を凌ぎ戸を出でて行く
喬峰の雪は白く十分明なり
朝光を待ち望む高嶺を照らすを
看ることを得たり紅粧の富士
は清し

通釈

明け方寒さをしのいで戸を開
けて行くと、富士山の峰は雪を
戴きはつきりと見える。朝日が
高嶺を照らすのを待っている、
素晴らしい赤富士をみることに
できた。

夕陽入富士山

白●銀●夕●日●入●山●腰●
影●秀●陽●光●輝●九●霄●
方●是●靈●峰●天●下●勝●
岫●巔●戴●雪●五●雲●招●

下平声二蕭

白銀の夕日山腰に入る
影は秀でて陽光九霄に耀く
方には靈峰天下の勝
岫巔雪を戴き五雲招く

通釈

銀色に光る夕日(富士山の三
合目ぐらいいに入ったため銀色時
刻はちょうど五時)が山腰に入
り富士山がシルエットのように
くつきりと浮かび沈んだ太陽の
光りが空全体に後光がさしてい
るようである。まさに靈峰富士
でそのうつくしさに勝るものは
ない。

富士山の頂上は雪を戴き五色
の雲を招いているようにもある。

山崎 和美 (昭43年卒)

母許の話尺きなく遠蛙
古里の話尺きなく蓬餅

草笛を友は上手に吹きくれし

若葉風扇を並べて父と娘と

春惜むセピア色して暮れなずむ

新樹暗何かい事ありさうな

※母許(ははがら)実家

あとがき

郷土大分でのワールド・カップ・
サッカーの開催も迫りましたが、
常々ご声援を賜り感謝申し上げて
おります。

然しながら、会報発行が年一回
のため諸情報ご提供、遅れの点何
卒ご寛容を賜ります。 委員一同

※「投稿」をお待ちしています。

若い世代の皆様への「クラス会
情報」や「特別寄稿」等々ご投稿
を特に期待しお待ちしております。



・投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

・連絡先

〒279-0022
千葉県浦安市今川2-10-31
神田 清 宛 (広報委員長)
☎047-354-9456